

日本財団助成事業 2012 年度進行報告書

事業 ID : 2010857278

事業名 : 海洋国家日本を支える教育研究拠点の構築
(日本財団講座)

団体名 : 東京大学海洋アライアンス

目 次

1. 組織概要	1
(1) 設置年月日	1
(2) 参加部局の構成	1
(3) 活動目的	1
(4) 研究内容	1
2. 2012年度事業の実施状況	1
(1) 運営にかかる会議	1
(2) 教育活動	2
① 教育の運営にかかる会議	2
② 海洋学際教育プログラム	3
③ 全学体験ゼミナール	4
④ 国際連携体制	4
(3) 研究活動	5
① 海洋政策学ユニット	5
② 学際海洋学ユニット	6
(4) アウトリーチ活動	13
① 東京大学海洋アライアンスシンポジウム	13
② ポータルサイト運営	13
③ 出前授業	16
④ 知の羅針盤	17
⑤ イブニングセミナー	17
(5) 研究支援活動	17
① イニシャティブ	18
② 東北地方太平洋沖地震への取り組み	18
③ 書籍の出版	20

1. 組織概要（別添A：海洋アライアンス概要パンフレット）

（別紙1：構成員一覧）

（1）設置年月日 平成19年7月3日

（2）参加部局の構成

大学院教育学研究科、大学院総合文化研究科、大学院理学系研究科、大学院工学系研究科、大学院農学生命科学研究科、大学院新領域創成科学研究科、大学院公共政策学連携研究部・教育部（通称：公共政策大学院）地震研究所、東洋文化研究所、生産技術研究所、史料編纂所、大気海洋研究所、アジア生物資源環境研究センター

上記13部局からなる研究者数259名
（平成24年7月現在）



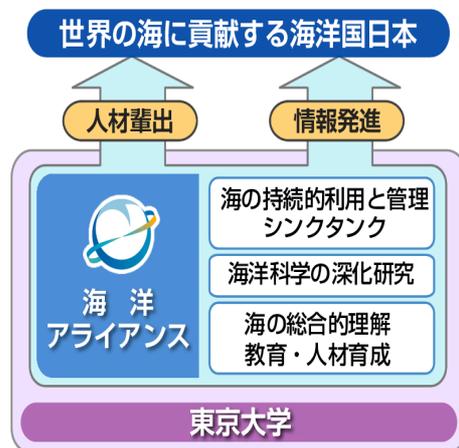
（3）活動目的

海に関わる教育研究の部局横断的なネットワーク組織として、次世代を担う総合的人材の育成に取り組むとともに、海に関わる現代的課題の発掘と、その解決のためのシンクタンクの役割を果たし、もって海洋関連分野における教育研究の国際的な核を形成することを目的とする。

（4）研究内容

これまで個別に行われてきた海洋関連分野を海洋科学に統合し、複雑で複合的・多様な海洋問題に対して、それぞれの専門知識を用いて様々な角度からの議論を展開し、統合的な知見を深める研究の実践を目指す。各部局・専攻内で行われている専門性の高い研究を推進する研究者が、時局にあわせたいくつかの個別の大テーマの下に集まって学際的研究を展開し、同時に得られた科学的知見を政策等で社会に還元し、環境問題等の解決に貢献する。

総合海洋基盤（日本財団）プログラムによる「海洋政策学ユニット」、「学際海洋学ユニット」が先の研究を強力にバックアップする。



2. 2012年度事業の実施状況

（1）運営にかかわる会議

（別紙2：評議会名簿、別紙3：推進委員会名簿、別紙4：運営委員会名簿）

総合海洋基盤（日本財団）プログラムについては、機構内部としては海洋アライアンスの行う評議会、推進委員会、運営委員会の審議を経て、貴財団との協議は総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議での審議を経て実施している。

(2012年)

- 4月 3日：第1回運営委員会
- 4月11日：第1回推進委員会
- 5月 1日：第2回運営委員会
- 5月29日：第1回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議
- 6月19日：第3回運営委員会
- 6月20日：第2回推進委員会
- 6月26日：第1回評議会
- 7月 3日：第2回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議
- 7月 3日：第4回運営委員会
- 9月 4日：第5回運営委員会
- 9月 5日：第3回推進委員会
- 9月11日：第2回評議会
- 9月12日：第3回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議
- 10月 9日：第6回運営委員会
- 11月 6日：第7回運営委員会
- 11月 7日：第4回推進委員会
- 11月13日：第4回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議
- 12月11日：第5回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議
- 12月11日：第8回運営委員会

(2013年)

- 1月 8日：第9回運営委員会
- 1月 9日：第5回推進委員会
- 2月 8日：第10回運営委員会
- 2月18日：第6回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議
- 2月19日：第3回評議会
- 3月19日：第7回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議
- 3月19日：第11回運営委員会
- 3月19日：第6回推進委員会

* 評議会、運営委員会、推進委員会は海洋アライアンスの活動全般を決定する機関であり、総合海洋基盤（日本財団）プログラムの活動は、海洋アライアンス活動の一部に位置づけられる。

(2) 教育活動

①教育の運営に係る会議

(別添B：東京大学横断型教育プログラムチラシ、別紙5：教育プログラム作業委員会名簿)

平成21年4月から、本学において実施されている学際的あるいは分野融合的な部局横断型教育プログラムの一環として、本機構による「海洋学際教育プログラム」が開講された。その運営にかかる会議として、海洋学際教育プログラム作業委員会があり、学期に1～2回程度開催され、審議している。

また、部局横断型教育プログラムとして、本機構のプログラムを含む5つの教育プログラムの担当部局による部局横断型教育プログラム連絡会が、5つの教育プログラムの問題解決に向け検討・審議している。

(2012年)

4月 9日：平成24年度第1回海洋アライアンス海洋学際教育プログラム作業委員会

10月 1日：平成24年度第2回海洋アライアンス海洋学際教育プログラム作業委員会

10月29日：部局横断型教育プログラム連絡会

(2013年)

3月19日：平成24年度第3回海洋アライアンス海洋学際教育プログラム作業委員会

②海洋学際教育プログラム

(別添C:海洋学際教育プログラムシラバス)

大学院学生(修士/専門職学位/博士後期課程)を対象に次世代を担う海の総合人材の育成を目指す海洋学際教育プログラムは、平成21年4月に開講し、4年目を迎え、常時80名ほどの学生が受講し、順調に実施され、今年度には、20名の修了生を送り出すことができた。

海洋政策学ユニットは、選択必修科目として、国際海洋法制度概論(西村弓、許淑娟〔非常勤〕、西本健太郎〔非常勤〕)、沿岸域管理法制度論(交告尚史、三浦大介〔非常勤〕)、海事産業・政策論(上田大輔)、海洋科学技術政策論(松浦正浩、城山英明)を開講し、必修科目として、事例研究:海洋問題演習Va・Vb(上田大輔、松浦正浩、西本健太郎〔非常勤〕)を開講し、講義を行った。

学際海洋学ユニットは、海洋生物資源利用論(古谷研、八木信行、他)、海洋法・海洋政策インターンシップ実習(木村伸吾、山本光夫)、海洋工学基礎(佐藤慎司、村山英晶)、海洋基礎科学(浦辺徹郎、日比谷紀之、赤坂甲治)を選択必修科目として、海洋問題演習(I:理学系、II:工学系、III:農学生命科学、IV:新領域創成科学)を必修科目として開講し、講義を行った。

ほかに海洋アライアンス推奨科目として16科目を選定し、修了に必要な単位を履修した学生には、修了証を交付した。

必修の海洋問題演習は、夏学期はいろいろな分野の専門家を招いて講義を行い、冬学期はテーマを設け、4・5人のチームに分かれ、議論した結果を発表し、優秀な発表を行ったチームには昨年度同様、表彰状及び賞品を授与した。優秀な発表が相次ぎ、学生にも他分野の学生と行う調査や議論を通じて提言をまとめることは好評で、演習の最終修了者は39名であった。

(2012年)

夏学期

4月 5日：選択必修科目「海事産業・政策論」開講日

4月 6日：推奨科目「海洋環境創造論」開講日

4月 9日：選択必修科目「国際海洋法制度概論」開講日

同：選択必修科目「海洋工学基礎」開講日

同：海洋学際教育プログラム・ガイダンス

4月10日：推奨科目「複雑流体システムモデリング」開講日

4月11日：推奨科目「水圏生態論」開講日

同：推奨科目「交渉と合意」開講日

4月16日：選択必修科目「海洋生物資源利用論」開講日

同：必修科目「海洋問題演習」開講日

同：インターンシップのガイダンス

4月27日：海洋学際教育プログラム履修登録締切(70名)

8月 2日：推奨科目「国際水産開発学総論」開講日

冬学期

- 10月 1日：選択必修「海洋科学技術政策論」開講日
- 同：冬学期オリエンテーション、「海洋問題演習」開講日
- 10月 2日：選択必修「沿岸域管理法制度論」開講日
- 同：推奨科目「Science、Technology and Public Policy」開講日
- 10月 3日：推奨科目「海洋生物学」開講日
- 同：推奨科目「海洋底ダイナミクス」開講日
- 10月 4日：推奨科目「海事技術イノベーション」開講日
- 10月 5日：選択必修科目「海洋基礎科学」開講日
- 同：推奨科目「海岸漂砂論E」開講日
- 10月31日：推奨科目「海洋科学野外実習」開講日
- 同：海洋学際教育プログラム履修登録10月入学者締切（年度計90名）
- 11月12日：海洋問題演習第1回チーム発表会
- 11月30日：推奨科目「水域保全学」開講日
- 12月17日：海洋問題演習第2回チーム発表会

③全学体験ゼミナール「海で学ぶ一臨海実験所における海洋体験実習一」

（別紙6：全学体験ゼミナール）

教養学部の学生を対象に理学系研究科附属臨海実験所で、2泊3日の集中講義及び実習を行うもので、講師は海洋アライアンスに登録の教員（7名）で、今年度は、18名の学生が参加し、臨海実験所職員、ティーチングアシスタントの支援を得ながら海岸の地質調査、灯火採集、海水分析、ROVや操船実習等を実施した。海洋という幅広い分野を総合的に考えることができる人材の育成に供した。

実施日：9月24日～26日

④国際連携体制（別添D：東大とロードアイランド大学による共同サマーセミナー）

国際連携体制構築の一環として、学生たちに国際経験を積ませるべく機会の提供に努めた。

1) 7月9日-7月13日にかけて、韓国（昌原）で開催されたPEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）のサイドイベント（Youth Forum）に学生3名を派遣し、持続可能な海域管理・海洋利用に関する総合討論に参加させた。

2) 5月14日に米国ロードアイランド大学と覚書（MOU）を取り交わし、今後両大学が共同でサマーセミナーを開催することを確認した。第一回は、東京大学側が受け入れ側になり、東日本大震災からの復興をテーマに、8月7日-15日にかけて三陸地方において実施した。ロードアイランド大学側から3名の教員と7名の学生が、東大側から4名の教員・7名の学生および4名のTAが、および施設を提供した北里大学から1名の教員が参加し、分野横断的な講義・エクスカージョン・討論・結果発表が行われた。次年度は、ロードアイランドにて実施を予定している。

なお、国連訓練調査研究所（UNITAR）と共同で開催している国際ワークショップについて、今年度は実施を見送り、次年度に向けて計画を見直している。

（3）研究活動

海洋アライアンスとして、継続して計画している研究テーマは、以下のとおりである。

- 1) 海底開発技術の発展と開発利用をめぐる政策決定
- 2) 深海底科学と開発利用をめぐる政策決定
- 3) 海運ネットワークと海洋セキュリティ
- 4) 東アジアの海の統合管理政策の形成

- 5) 沿岸域統合管理における海洋環境保護および資源保存
- 6) 地球環境科学と海洋統合管理
- 7) 「海の帝国」と21世紀の海洋秩序
- 8) 海洋機能遺伝子と生物多様性をめぐるポリティクス
- 9) 海洋エネルギー洋上基地開発とエネルギー政策
- 10) 海洋性食料生産システムと食料安全保障

上記研究テーマについて、総合海洋基盤（日本財団）プログラムでは、海洋政策学ユニット（ユニット長：城山英明 公共政策大学院／大学院法学政治学研究科教授）および学際海洋学ユニット（ユニット長：黒倉 壽 農学生命科学研究科教授）が次のような教育・研究活動を行っている。

①海洋政策学ユニット

a) 教育活動

- ・公共政策大学院の専門職修士課程学生を対象に海洋問題演習 V a および V b を開講し、いわゆる文系学生にも海洋の多様な問題群に対して関心を高め、導入となる知見を講義した。
- ・海洋学際教育プログラムに位置づけられる、海洋科学技術政策論（選択必修1）、国際海洋法制度概論、沿岸域管理法制度論、海事産業・政策論（以上選択必修2）、**Science、Technology and Public Policy**、国際空間秩序と法、交渉と合意（以上推奨科目）を、公共政策大学院において開講した。
- ・駒場総合科目「海の魅力と海の基礎Ⅱ」において、教養課程の学生を対象に、海の科学技術と社会・政策のかかわりに関して講義した。

b) 研究活動

- ・アジアにおける統合的海洋管理の制度設計と政策手段に関する課題等の把握の一環として、国境離島における海洋安全保障や地方自治体としての海洋管理活動に関する現状と課題について実地調査するとともに、海洋調査研究産業の現在と展望、アジア諸国の海洋関連国内法令等について調査した。
- ・国内の学識経験者、行政機関、業界関係者を招聘すること等により、国際海運 CO2 規制、海洋安全保障、離島振興法や領海法の改正、港湾行政やポートセールス等に関する勉強会等を実施し、日本の海洋政策の現状と課題について把握した。
- ・沿岸域総合管理のモデル教育カリキュラム等に関する調査研究事業に参加し、その成果を活用した連続特別講座にて合意形成の理論と制度につき講義した。
- ・シンガポール及びインドネシアの船社、荷主、コンテナターミナル等を訪問して国際海上物流等の現状と課題に関して情報収集するとともに、船社の外国での活動の活発化、石油会社の船社選択行動等についてヒアリングを行い、日本籍船に関する諸問題について検討した。
- ・新たな安全保障上の課題と国際法、エネルギーに係る安全保障、貿易管理に関わる安全保障、海上交通に関する安全保障、海賊行為に対する安全保障、海洋環境に関する安全保障に関して検討するとともに、海洋安全保障に関するワークショップを行った。

c) 社会貢献活動

- ・本学の海洋に関する研究者集団の知的リソースを領域横断的に統合し、政府による次期海洋基本計画の策定に向けた検討が本格化する時期に合わせて、政策ビジョン研究センターと連名で「海洋基本計画の見直しに向けた提言」を出した。
- ・上記提言に関連して、超党派の国会議員と海洋関係各界の有識者が集う海洋基本法戦略研究会において、「実効的海洋空間ガバナンスに向けて」と題して、その時点における検討状

況を報告した。

- ・海洋アライアンスシンポジウム「人と海のかかわりの将来像」にて、「次期海洋基本計画の課題について」及び「洋上風力発電と地域・漁業との共生」というテーマで講演した。
- ・公共政策大学院シンポジウム「海洋調査研究産業の現在と展望～海洋に関する多様な調査研究の国内と海外の事情の全体像を把握し、今後の展望を探る～」を共催した。

②学際海洋学ユニット

a) 教育活動

- ・海洋学際教育プログラムの必修科目「海洋問題演習」の企画・実施を行った。また選択必修科目である「海洋生物資源利用論」、「海の魅力と海の基礎Ⅱ」、全学体験ゼミナール「海で学ぶ」をそれぞれ担当した。また同選択必修科目「海洋法・海洋政策インターンシップ実習」において、国土交通省総合政策局、水産総合研究センター、環日本海環境協力センターとの間に、教育・キャリアパス形成のための派遣研修プログラムを構築し、学生を派遣して政策形成プロセスの実践的講習を実施した。
- ・教養課程科目である「海の魅力と海の基礎」（駒場）の講義を2コマ、「水圏生物科学」（駒場）の講義を6コマ、農学系大学院科目である「農学国際特論」の講義を1コマ、新領域系大学院科目「海洋生態系モデリング」の講義を6コマ、工学系大学院科目である「マイクロ流体システム特論」の講義を2コマ、それぞれ実施した。
- ・出前授業：企画・運営に従事した。

b) 研究活動

- ・科学研究費補助金「熱帯種をモデルとしたウナギ資源変動機構の解明」を獲得し、フィリピン・ルソン島で熱帯ウナギに関する調査を実施した。
- ・科学研究費補助金「最新の生理生態情報に基づくウナギ大量種苗生産技術の実現」に分担研究者として参加し、マリアナ諸島西方海域におけるウナギ産卵場調査航海に参加し、天然のニホンウナギ卵の採集に成功した。
- ・近年激減するウナギ資源について、East Asia Eel Resource Consortiumの幹事として緊急国際会議を呼びかけ、その管理・保全方策をとりまとめて関係機関へ提出した。
- ・JST/CREST研究課題「超高速遺伝子解析時代の海洋生態系評価法の創出」に参画し、「海洋遺伝子アーカイブシステム」の開発に着手した。
- ・海洋調査船または海中探査機に搭載可能な小型・現場型のポータブル原子間力顕微鏡の開発を行い、成果の一部を関連学会および科学雑誌で公表した。
- ・経済面及び環境面の双方から海洋生物資源利用に関する分析を行うため、国内及び外国で現地実態調査を行った。また、結果を、口頭及び文書の双方にて、関係学会や研究会などで発表した。
- ・東京湾の利用の最適化と合意形成を目的とし、自治体の定点観測データベース等を解析し、東京湾の人為的な管理区分と水質・生物資源分布との相関から海洋空間計画の作成に向けた考察を行った。成果は学会で発表した。
- ・科研費新学術領域研究「新海洋像：その機能と持続的利用」（代表 古谷研）において「海洋の市場性・非市場性価値の評価」を分担、海に対する日本人の価値認識に関するアンケート調査を実施した。また「新海洋像：その持続的利用を図る国際レジーム」を分担し、過去の国際交渉担当者へのヒアリングを実施し、また既往の海洋関係の国際交渉について成功・失敗の事例をレビューした。
- ・震災復興のための現地協力を行うとともに、東北漁業復興のための基礎研究を行った。
- ・JST復興促進プログラム「水産加工サプライチェーン復興に向けた革新的基盤技術の創出」において採択された「電子商取引を利用した消費者コミュニケーション型水産加工業によ

る復興」の研究に着手し、消費者による水産物の放射性物質汚染の懸念を軽減し、かつ消費者コミュニケーション型水産加工業の仕組みを確立するため、消費者アンケート調査を実施して効果的な復興方策についての分析を行った。

- ・科学研究費補助金若手研究 (A)「製鋼スラグと腐植様物質による藻場再生技術の確立とその導入設計手法に関する研究」を実施し、鉄を利用した藻場再生技術の実用化に向けた研究を実施した。
- ・東日本大震災の復興支援の一環として、釜石湾において沿岸環境モニタリング調査を定期的に行い、国際学会発表等を行った。本調査は、海洋アライアンスの「東北地方太平洋沖地震・津波災害からのレジリエンス向上についての提言に資する調査支援」における採択課題「東北における水産業の復興に向けた釜石沿岸域の環境モニタリング調査」として、2013年より継続実施されている。上記とともに、気仙沼・舞根湾で行われている生物調査にも参画し、調査結果をシンポジウムで報告し科学雑誌で公表した。
- ・(公財)鉄鋼環境基金の研究助成「鉄鋼スラグと腐植物質による藻場再生技術の効果継続性と環境影響評価」の実施や筑後川流域における鉄の動態に関する調査研究など、鉄と沿岸生態系に関する研究活動を行った。
- ・海産生物を用いた生態毒性評価手法を開発し、成果の一部を科学雑誌で公表した。
- ・国、都道府県および水産業界団体が実施している水産物の放射性物質モニタリングについて、既往知見と現状をとりまとめ、関連学会および科学雑誌で公表した。また生理学的な知見を含めた水産物の放射性物質についての解説記事を作成した(福島県漁連ウェブサイトで公開)。
- ・環境省委託、平成24年度地球温暖化対策技術開発・実証研究事業「自然共生型ブローホール波力発電システムの実証研究」のうち、海洋環境影響評価について計画策定および調査に参画した。

c) 海洋アライアンスのイニシャティブ活動

学際海洋学ユニットの教員は、海洋アライアンスイニシャティブの次の研究課題について、代表者あるいは共同研究者として参画し、専門的、学際的な立場から研究活動をおこなった。

- ・島嶼周辺海域の保全と利用の望ましいバランス-沖縄県竹富町を事例として- (代表者：福代康夫、アジア生物資源環境研究センター教授)
- ・東北における水産業の復興に向けた釜石沿岸域の環境モニタリング調査 (代表者：山本光夫、新領域創成科学研究科特任准教授) (東北地方太平洋沖地震・津波災害からのレジリエンス向上についての提言に資する調査、ワークショップ等イベントに対する支援)
- ・漁業権の源流をさぐる (代表者：八木信行)

d) ユニット教員会議その他の会議日程

(2012年)

- 4月10日： 第31回学際海洋学ユニット担当教員会議
- 5月29日： 第32回学際海洋学ユニット担当教員会議
- 6月28日： 第33回学際海洋学ユニット担当教員会議
- 8月1日： 第34回学際海洋学ユニット担当教員会議
- 9月7日： 第35回学際海洋学ユニット担当教員会議
- 10月1日： 第36回学際海洋学ユニット担当教員会議
- 12月27日： 第37回学際海洋学ユニット担当教員会議

(2013年)

- 1月29日： 第38回学際海洋学ユニット担当教員会議
- 3月15日： 第39回学際海洋学ユニット担当教員会議

e) ユニット教員活動記録

青山特任准教授

(2012年)

- 4/19-26 フィリピンにてニホンウナギと熱帯ウナギの接岸量調査
- 5/7-11 イギリス・エジンバラにてWorld Fish Congress参加、発表
- 5/13-6/28 ニホンウナギ産卵場調査ため白鳳丸 (KH-12-2) 航海乗船
- 7/5-26 ニホンウナギ産卵生態調査のためJAMSTECよこすか/しんかい6500航海乗船
- 8/12-18 フィリピンにてニホンウナギと熱帯ウナギの接岸量調査
- 8/19-20 仁淀川の森と水を考えるシンポジウム (高知県土佐市) にて基調講演
- 8/22 自民党水産部会ウナギ資源勉強会にて講演 (永田町自民党本部)
- 9/1 科学ライブショー「ユニバース」にて講演 (北の丸科学技術館)
- 9/12 全国淡水魚荷受組合連合会総会にて基調講演 (静岡県掛川市)
- 9/15-17 日本水産学会秋季大会にて発表 (水産大学校)
- 9/25 水産総合研究センターウナギ総合プロジェクト事業打ち合わせおよび講演 (横浜みなとみらい)
- 10/8 春華堂本社にてウナギ資源の現状と鰻川計画に関して講演 (静岡県浜松市)
- 10/19 税関研究所にてウナギ種判別法の紹介 (柏市)
- 10/25 桐蔭学園小学校にて講演 (横浜市)
- 10/27 千葉県立佐倉高校にて講演 (千葉県佐倉市)
- 10/29 都立両国高校にて講演 (墨田区)
- 10/31 大垣東高校にて講演 (岐阜県大垣市)
- 11/7 茨城高校にて講演 (茨城県水戸市)
- 11/13-18 フィリピンにてニホンウナギと熱帯ウナギの接岸量調査
- 11/27-30 東アジアウナギ資源協議会(EASEC)総会主催 (台湾基隆市)
- 12/7 水産総合研究センターウナギ総合プロジェクト事業打ち合わせおよび講演 (横浜みなとみらい)
- 12/14 NHK BS「ほっとアジア」出演
- 12/20 生物多様性 (CBD) 勉強会 (水産庁)

(2013年)

- 1/6 JAMSTECにて研究打ち合わせ (横須賀市)
- 1/7 水産総合研究センターウナギ総合プロジェクト事業打ち合わせおよび講演 (柏キャンパス)
- 1/8-3/13 熱帯ウナギの産卵回遊調査のため白鳳丸 (KH-13-1、 2) 乗船

吉川特任准教授

(2012年)

- 5/10-11 大槌町復興プロジェクト現地視察および打合せ (岩手県大槌町)
- 5/31-6/1 水産物の放射性物質調査研究に関する打合せ (千葉県御宿町)
- 6/5-6 水圏の有害化学物質規制に関する打合せ (柏崎市)
- 7/10-11 海洋酸性化の生物影響に関する研究打ち合わせ (長崎市)
- 9/14-17 日本水産学会にて水産物の放射性物質に関する成果発表 (水産大学校)
- 10/8 水産物の放射性物質に関するシンポジウム参加 (東京海洋大)
- 10/10 洋上風力発電設備敷設による環境影響に関する打合せ (千葉県御宿町)
- 10/30-31 宮崎県立延岡高等学校において出前授業 (延岡市)
- 11/1 海洋調査研究産業シンポジウムのための打合せ (本郷キャンパス)

- 11/10 大妻多摩中学高等学校において出前授業（多摩市）
- 11/16 日本海洋学会震災WGに日本水産学会代表として陪席（東京都千代田区）
- 11/28-29 全国原子炉温排水研究会出席（京都府宮津市）
- 12/2-3 自然共生型ブローホール波力発電システム実証研究現地調査（福井県越前町）
- 12/19 自然共生型ブローホール波力発電システム実証研究技術打合せ（大阪市）
- 12/20 海洋調査研究作業シンポジウム打合せ（木津川市）

(2013年)

- 1/15 海洋調査研究産業に関するヒアリング（東京都千代田区）
- 1/30 地球温暖化による水産業への影響に関するヒアリング（茨城県平磯町）
- 2/2 二酸化炭素回収貯留国際WS参加（本郷キャンパス）
- 2/18 茨城県立日立第一中学校において出前授業（日立市）
- 2/24 水産物の放射性物質影響に関するシンポジウム参加（本郷キャンパス）
- 2/26 海洋調査研究産業シンポジウム参加（東京都港区）
- 2/27-28 地球温暖化および海洋酸性化研究に関する打合せ（長崎市）
- 3/7 漁場環境化学物質影響評価手法開発検討委員会出席（東京都新宿区）
- 3/8 海洋酸性化研究に関する打合せ（本郷キャンパス）
- 3/13 自然共生型ブローホール波力発電システム実証研究技術検討委員会出席（駒場キャンパス）
- 3/14 長崎大学第3回東京セミナー講演（東京都千代田区）
- 3/18 東京都立墨田川高等学校にて出前授業（東京都墨田区）

山本特任准教授

(2012年)

- 4/3 NPO法人森は海の恋人主催シンポジウム「海とともに生きるーよみがえる海の生き物・復興へのメッセージ」にて、調査報告
- 5/17-19 筑後川流域の生態調査・試料サンプリング
- 5/21-25 OCEANS2012（韓国・麗水）にて発表
- 5/27-28 気仙沼舞根湾における生物環境調査および研究会議
- 6/14-16 長崎県対馬市において、藻場再生実証試験の海域調査および研究打ち合わせ
- 6/26 特定非営利活動法人 地球環境カレッジ第114回定例講演会東京にて招待講演
- 6/27 宮城県和泉高校にて出前授業
- 6/29-30 Water and Environmental Technology Conference 2012 (WET2012)（東京大学駒場IIキャンパス）において発表
- 7/17-18 気仙沼舞根湾における生物環境調査
- 7/24-26 釜石湾における沿岸環境調査
- 7/30-31 北海道増毛町における藻場再生実証試験の現地視察・打ち合わせ
- 9/4 新日本製鐵(株)（現・新日鐵住金(株)）にて研究打ち合わせ
- 9/19-21 化学工学会第44回秋季大会（東北大学）において発表
- 9/24-26 全学体験ゼミナール「海で学ぶ～臨海実験所での体験実習～」を担当
- 10/17-18 筑後川河口域調査
- 10/26 鹿児島県立鶴丸高校にて出前授業
- 11/15-18 水産海洋学会創立50周年記念大会（東京大学伊藤国際学術研究センター）において発表
- 11/22 第28回日本腐植物質学会講演会（首都大学東京）において発表
- 12/4-5 北海道増毛町における水槽試験の開始作業および研究打ち合わせ
- 12/8 The 4th Asia-Pacific Young Water Professionals Conference 2102 (APYWP2012)におい

て発表

(2013年)

- 1/15 総合科目「海の魅力と海の基礎Ⅱ」の授業担当
- 1/24-25 長崎県対馬における海域環境調査と現地実験開始作業
- 1/28 日本財団にて、東京大学海洋アライアンス・日本財団共同シンポジウムの打ち合わせに蒲生教授、木村教授らと共に参加
- 2/6-8 釜石湾での沿岸環境モニタリング調査および打ち合わせ
- 2/18 日本財団にて、東京大学海洋アライアンス・日本財団共同シンポジウムの打ち合わせに蒲生教授、木村教授らと共に参加
- 3/7-8 第3回有明海再生研究会（京都大学）への出席（調査報告および打ち合わせ）
- 3/13 自然共生型ブローホール波力発電システム実証研究技術検討委員会出席（駒場キャンパス）
- 3/18-19 化学工学会第78年会への参加
- 3/21-23 三重県志摩市における海域環境調査および打ち合わせ
- 3/27 平成25年度日本水産学会春季大会にて発表

西田特任講師

(2012年)

- 10/5 東京大学大気海洋研究所において開催された第50回海中海底工学フォーラムに出席
- 10/11 東京大学大気海洋研究所において開催されたセミナーにおいて液中原子間力顕微鏡に関する講演を行い、木暮一啓教授と研究の打ち合わせをした。
- 10/18-19 福島県坂巻温泉で開催された、学術振興会ナノプローブテクノロジー第168委員会第68回研究会に出席し、液中原子間力顕微鏡に関する招待講演を行った。
- 10/28-11/1 沖縄コンベンションセンターで開催された、MicroTAS2012に出席した。
- 11/8-9 海上保安庁海洋情報部において開催された、海洋調査技術学会第24回成果発表会に出席した。

(2013年)

- 1/22 静岡大学岩田研究室にて海中ナノプローブ技術に関する研究の打ち合わせをした。
- 1/30 東京大学生産技術研究所において開催された工学とバイオセミナーにおいて海中ナノ計測工学に関する招待講演を行った。
- 2/25 日本財団ビルにおいて開催された海洋情報フォーラムに出席した。
- 2/26 国際文化会館において開催された海洋情報産業シンポジウムに出席した。
- 3/5-8 東京大学生産技術研究所において開催された海洋工学シンポジウムに出席し、海中ナノ計測工学に関するポスター発表を行った。
- 3/14-15 東京海洋大学において開催されたブルーアースシンポジウムに出席し、情報交換を行った。

f) ユニット教員学術論文等の業績

1. Aoyama J, Shinoda A, Yoshinaga T, Tsukamoto K (2012) Late arrival of *Anguilla japonica* glass eels at the Sagami River estuary in two recent consecutive year classes: ecology and socio-economic impacts. FISHERIES SCIENCE. 78: 1195-1204.
2. Gagnaire PA, Minegishi Y, Zenboudji S, Valade P, Aoyama J, Berrebi P (2012) Within-population structure highlighted by differential introgression across semipermeable barriers to gene flow in *Anguilla marmorata*. EVOLUTION. 65 :3413-3427.

3. Hagihara S、Aoyama J、Limbong D、Tsukamoto K (2012) Morphological and physiological changes of female tropical eels, *Anguilla celebesensis* and *Anguilla marmorata*, in relation to downstream migration. JOURNAL OF FISH BIOLOGY 81: 408-426.
4. Iwai H、Fukushima M、Yamamoto M (2012) Binding Characteristics and Dissociation Kinetics for Iron(II) Complexes with Seawater Extractable Organic Matter and Humic Substances in a Compost. Analytical Sciences、28、819-820.
5. Iwai H、Fukushima M、Yamamoto M、Komai T、Kawabe Y (2013) Characterization of seawater extractable organic matter from bark compost by TMAH-py-GC/MS. Journal of Analytical and Applied Pyrolysis、99、9-15.
6. Kaifu K、Miller MJ、Yada T、Aoyama J、Washitani I、Tsukamoto K. Growth differences of Japanese eels *Anguilla japonica* between fresh and brackish water habitats in relation to annual food consumption in the Kojima Bay-Asahi River system, Japan. ECOLOGY OF FRESHWATER FISH. In press.
7. Kaifu K、Miyazaki S、Aoyama J、Kimura S、Tsukamoto K (2012) Diet of Japanese eels *Anguilla japonica* in the Kojima Bay-Asahi River system、Japan. ENVIRONMENTAL BIOLOGY OF FISHES. In press.
8. 吉川貴志 (2012)「消費者の安全を守りながら福島県の漁業を再開することはできるか (八木信行)」解説記事 (http://www.jf-net.ne.jp/fsgyoren/yagi_kaisetu.pdf)
9. Minegishi Y、Gagnaire PA、Aoyama J、Bosc P、Feunteun E、Tsukamoto K、Berrebi P (2012) Present and past genetic connectivity of the Indo-Pacific tropical eel *Anguilla bicolor*. JOURNAL OF BIOGEOGRAPHY. 39:408-420.
10. 西谷豪・山本光夫・夏池真史・劉丹・吉永郁生 (2012) 気仙沼舞根湾の植物プランクトンの動態 (特集 津波の海に生きる未来創生: 気仙沼舞根湾調査). 海洋と生物 34(6)、545-555.
11. 及川真司・渡部輝久・日下部正志・吉川貴志・御園生淳 (2012) 特集にあたって. 海洋と生物、34(3)、203-205.
12. Park J、Karsten SL、Nishida S、Kawakatsu H、Fujita H (2012) Application of a new microcantilever biosensor resonating at the air-liquid interface for direct insulin detection and continuous monitoring of enzymatic reaction. Lab on a Chip、12、4115-4119.
13. 眞道幸司・岸田智穂・吉川貴志・伊藤康男 (2012) 海産生物を用いた化学物質の生態毒性試験法の開発—防汚剤の生態影響評価を目指して. 日本マリンエンジニアリング学会誌、47(5)、664-669.
14. Sudo R、Tosaka R、Ijiri S、Adachi S、Aoyama J、Tsukamoto K (2012) 11-ketotestosterone Synchronously Induces Oocyte Development and Silvering-related Changes in the Japanese Eel, *Anguilla japonica*. ZOOLOGICAL SCIENCE 29: 254-259.
15. Yamamoto M、Liu D. Characterization of iron elution for seaweed bed restoration using a steelmaking slag and compost method. Journal of Material Cycles and Waste Management (in press)
16. Yamamoto M、Fukushima M、Liu D (2012) The Effect of Humic Substances on Iron Elution in the Method of Restoration of Seaweed Beds using Steelmaking Slag. ISIJ Journal、52(10)、1909-1913.
17. 山本光夫・横山勝英・吉永郁生 (2012) 気仙沼舞根湾における重金属類と流出油の水質・底質への影響 (特集 津波の海に生きる未来創生: 気仙沼舞根湾調査)、海洋と生物 34(6)、

538-544.

18. 横田瑞郎・吉川貴志・土田修二・渡邊剛幸 (2012) 水産物の放射性物質モニタリング. 海洋と生物、34(3)、244-249.
19. 横田瑞郎・渡邊剛幸・吉川貴志・土田修二 (2013) 東日本太平洋側の水産物から検出された放射性物質について—2011年9月～2012年1月の調査結果—. 海洋生物環境研究所研究報告、16、11-28.
20. Yokouchi K、Fukuda N、Miller MJ、Aoyama J、Daverat F、Tsukamoto K (2012) Influences of early habitat use on the migratory plasticity and demography of Japanese eels in central Japan. ESTUARINE、COASTAL AND SHELF SCIENCE 107: 132-140. DOI: 10.1016/j.ecss.2012.05.009.

(4) アウトリーチ活動

①東京大学海洋アライアンスシンポジウム「第7回東京大学の海研究」

【人と海のかかわりの将来像】

(別添E、F：チラシ及び概要集)

第7回目を迎える今年度は、「人と海のかかわりの将来像」をテーマに最新の研究内容の講演が文系・理系の教員から行われ、多くの質問が寄せられた当日応えられなかった質問については、後日、講演者からの解答をホームページに掲載した。

開催日：2012年7月24日(火)

場所：弥生講堂一条ホール

参加者数：209名

プログラム：

企画の趣旨

副機構長 木暮一啓(大気海洋研究所)

次期海洋基本計画の課題について

城山英明(公共政策大学院)

海洋リテラシーが育む女性進出への期待

窪川かおる(理学系研究科)

洋上風力発電と地域・漁業の共生

松浦正浩(公共政策大学院)

ライブモニタリングによる環境プロファイリング

齋藤 馨(新領域創成科学研究科)

バイオロギングがもたらす新しい海洋情報

佐藤克文(大気海洋研究所)

藻場再生と沿岸環境

山本光夫(新領域創成科学研究科)

東日本大震災後の沿岸生態系の変遷

—生物資源を持続的に利用し続けるために必要なこと— 河村知彦(大気海洋研究所)

東北地域の新たな漁業への道筋

千田良仁(農学生命科学研究科)

地球システムの変遷からみた将来予測 住 明正(サステイナビリティ学連携研究機構)

挨拶

機構長 浦 環(生産技術研究所)

②ポータルサイト運営

海洋アライアンスの活動紹介と海洋研究の最前線を周知するため、海洋アライアンスのポータルサイト(和文、英文)を運営している。

「最新情報」欄では、主催はもとより、共催・協賛・後援その他のシンポジウムの案内などを掲載し、「活動報告」では海洋アライアンスの活動状況を年度末の報告とは別に速報的に掲載している「学内向け情報」欄では、学生への授業案内やメンバー向けの情報(イニシアティブの申請書書式のダウンロードなど)を掲載している今年度は、学生活動の紹介のサイトを「学生活動の窓」としてリニューアルし、記事を増やしたまた、出版物の紹介を「海洋アライアンスの本」と改め、記事の追加を行った。

【最新情報】掲載記事一覧

<2012年>

- 4月：【海洋アライアンスシンポジウム：第7回東京大学の海研究「人と海のかかわりの将来像」】(2012/7/24)
- 5月：【シンポジウム：海洋教育から考える"津波・防災"—東南海地震に備えて—】(2012/7/8)
【シンポジウム：海は学びの宝庫】(2012/6/30)
【講演会：津波防災の実践教育—東日本大震災に学ぶ—】(2012/6/2)
- 6月：【シンポジウム：レアアースの全てを語る】(2012/7/20)
【大陸棚セミナー：国連海洋法条約30周年と条約実施期間の役割】(2012/7/11)
【国連海洋法条約締約国会議において、海洋アライアンス副機構長浦辺教授が大陸棚限界委員会委員に再選】(2012/6/7)
【International Symposium on Underwater Technology 2013開催及び論文募集のお知らせ】(2013/3/5-8開催)
- 7月：【地震に克つニッポン】出版の御案内
【「人と海と地球—海洋政策の視点から考える」第1回OPRF研究員セミナー開催の御案内】(2012/7/17)
【EU漁業政策について：欧州委員会委員による講演会】(2012/7/9)
- 8月：【第50回地中海海底工学フォーラム】(2012/10/5)
【「東京大学大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター災害支援募金」へのご協力をお願い】
- 9月：【第3回海洋エネルギー東北再生シンポジウム】(2012/11/1)
- 11月：【第6回東京湾海洋環境シンポジウム：東京湾再生の将来ビジョン】(2012/11/30)
- 12月：【講演会のお知らせ：貝類の防疫を考える—東日本大震災からの復興に向けて—】(2013/2/9開催)
【日経ビジネスオンラインに大気海洋研究所のバイオリギング記事】(2012/12/7)

<2013年>

- 1月：【提言】海洋基本計画の見直しに向けた提言/電子書籍版を掲載
【東京大学 大気海洋研究所50年史の公開】
【国際常民文化研究機構成果発表会：「南と北の船」「日本の舟」】(2013/2/16開催)
【特任教員の公募】海洋アライアンス「海洋リテラシープログラム」(2013/2/22〆切)
【Symposium：海洋調査研究産業の現在と展望 The Present Situation and Future Perspective of Ocean-related Investigation and Research Business】(2013/2/26開催)
- 2月：【海洋情報フォーラム：海洋情報の更なる利活用の可能性を探る】(2013/2/25)
【明らかになった沖ノ鳥島サンゴ種リスト】(2013/2/4記者発表)
- 3月：【第51回地中海海底工学フォーラム】(2013/4/19開催)
【シンポジウム：バイオリギングの沿岸域総合管理への応用—東京湾から考える—】(2013/3/15)

【活動報告】掲載記事一覧

<2012年>

- 4月：【海洋アライアンスが協力する生涯学習プログラム「グレーター東大塾第3弾」始まる】(2012/4/10)
【東北地方太平洋沖地震・津波について寄せられた質問への回答集(シンポジウム「震災を科学する」から)】
- 6月：【国際シンポジウム】震災復興過程に見る人と海の将来像(2012/5/14-15)
- 7月：【講演会】マリア・ダマナキ欧州委員会委員による講演会

- 8月：【出前授業】子供たちに海の研究の最前線を伝える
 【シンポジウム】第7回東京大学の海研究「人と海のかかわりの将来像」(2012/7/24) :
 Q&Aを掲載しました。
- 9月：【第15回イブニングセミナー】ウィンドチャレンジャー計画
- 10月：【第16回海洋アライアンス・イブニングセミナー】PEMSEA報告会
- 12月：【サマーセミナー】東京大学とロードアイランド大学による共同サマーセミナー：
 Recovering from the Catastrophic Tsunami
- <2013年>
- 3月：【シンポジウム】海洋調査研究産業の現在と展望

【学内向け情報】掲載一覧

- <2012年>
- 4月：【2010年度、2011年度、2012年度「海洋問題演習」履修生対象：PEMSEA_Youth_Forum
 参加者募集】(2012/7/7~14)
 【教養学部総合科目：海の魅力と海の基礎 I 2012年度夏学期レポート課題】(随時更新)
 【「海洋法・海洋政策インターンシップ実習」説明会のお知らせ】
 【平成24年度 海洋工学基礎 課題一覧】
 【「国際水産開発学総論」の実施日程】
 【講義室変更：国際海洋法制度概論】
 【海洋アライアンス法規集(2012年4月1日現在)】
 【平成24年度夏(1・3)学期 D：人間・環境一般「海の魅力と海の基礎 I」】
- 5月：【海洋アライアンス2012年度後期イニシアティブの募集】(2012/6/22締切)
 【「海洋学際教育プログラム」2012年9月修了者の修了証の申請】
 【海洋政策支援情報ツール(海洋台帳)の供用開始のお知らせ】(2012/5/18開始)
 【海洋問題演習を履修済みあるいは履修中の大学院生対象：東京大学とロードアイランド大学による共同サマーセミナーの参加者募集】(2012/8/7~15)
- 6月：【第2回「海のフロンティアを開く岡村健二賞」候補者公募のお知らせ】(2012/8/31締切)
 【東京大学とロードアイランド大学による共同サマーセミナーへの参加者！追加募集！】(2012/6/15締切)
- 7月：【平成24年度夏学期「海洋問題演習」レポート作成要領】(2012/8/24_15:00締切厳守)
- 9月：【海洋学際教育プログラム：2013年3月末修了者の修了証の申請】
 【平成24年度 冬(2・4)学期 D：人間・環境一般「海の魅力と海の基礎 II」】
 【海洋問題演習：2012冬学期テーマ希望調査】(2012/9/19締切)
 【海洋学際教育プログラム「水域保全学」(冬学期集中講義)：開講日と場所のお知らせ】
- 10月：【課題募集：「東北地方太平洋沖地震・津波災害からのレジリエンス向上についての提言に資する調査、ワークショップ等イベントに対する支援」】(2012/11/30締切)
- 12月：【学内外の各種行事への海洋アライアンスの協賛、後援、共催】
 【海洋問題演習平成24年度第1回総合発表会：総評】(2012/11/12)
 【教養学部総合科目：海の魅力と海の基礎 II 2012年度冬学期レポート課題】(随時更新)
 【2013年度前期「海洋アライアンス・イニシアティブ」申請募集】(2012/12/14締切)
- <2013年>
- 1月：【イニシアティブ採択一覧】(2013/1/10更新)
- 3月：【平成25年度 海洋工学基礎 課題一覧】

③ 出前授業

(別紙7：出前授業実施一覧)

海に関する教育の一環として、海洋アライアンスの研究者が講師として小・中・高校に出向き、ボランティアで授業を行う活動を実施している海に関する単純な質問から、最先端の研究内容まで、いろいろな事柄を楽しく学べるプログラムになっている年々増加する傾向にあり、一年度に一校、一名の講師を派遣することとし、多くの学校で実施できるよう計らっている。

(2012年)

- 6月 9日：山梨県、甲斐市立双葉中学校 古谷 研教授「海の砂漠」
同 日：栃木県、國學院大學栃木高等学校 佐藤慎司教授「津波と沿岸防災」
同 日：東京都、桜美林高等学校 木村伸吾教授「食べて美味しい魚の話」
6月26日：東京都、桜美林高等学校 福島朋彦特任准教授「沖ノ鳥島から学ぼう」
同 日：東京都、世田谷区立八幡山小学校 巻 俊宏准教授「海中ロボット」
6月27日：宮城県、泉高等学校 山本光夫特任准教授
「鉄による海の緑化と沿岸域の環境保全」
6月29日：茨城県、古河私立古河第一小学校 八木信行准教授「食卓に迫る危機」
7月 2日：茨城県、水戸啓明高等学校 鈴木英之教授「海の自然エネルギー」
7月13日：東京都、東京都市大学付属高等学校 北川貴士「熱い血潮のマグロたち」
7月17日：千葉県、八千代松陰高等学校 鈴木英之教授「海の自然エネルギー」
7月26日：東京都、大田区立多摩川小学校 福島朋彦特任准教授「海の生き物あれこれ」
8月 7日：千葉県、鎌ヶ谷市立西部小学校 巻 俊宏准教授「海中ロボット」
9月 1日：東京都、科学技術館 青山 潤特任准教授「うなぎの大回遊の謎」
9月 8日：東京都、葛飾区立綾南小学校 窪川かおる特任教授「海洋生物にみる進化」
9月10日：埼玉県、花咲徳栄高等学校 丹羽淑博特任准教授「津波の物理の基礎」
9月29日：東京都、大泉高等学校附属中学校 浦辺徹郎教授「深海底に生物の起源を探
す」
10月 9日：茨城県、県立江戸崎総合高等学校 八木信行准教授「食卓に迫る危機」
10月15日：千葉県、千葉市立千葉高等学校 丹羽淑博特任准教授「津波の物理の基礎」
10月17日：神奈川県、県立海洋科学高等学校 福島朋彦特任准教授「沖ノ鳥島から学ば
う」
10月19日：広島県、県立賀茂高等学校 佐藤慎司教授「海岸浸食と沿岸防災」
10月26日：東京都、清瀬市立清瀬第三小学校 福島朋彦特任准教授「海の生き物あれこ
れ」
同 日：鹿児島県、県立鶴丸高等学校 山本光夫特任准教授
「鉄による海の緑化と沿岸域の環境保全」
10月29日：東京都、都立両国高等学校 青山 潤特任准教授「うなぎの大回遊の謎」
10月31日：岐阜県、県立大垣東高等学校 青山 潤特任准教授「うなぎの大回遊の謎」
同 日：宮崎県、県立延岡高等学校 吉川貴志特任准教授「地球温暖化と海洋生物」
11月 7日：熊本県、県立済々黉高等学校 鈴木英之教授「海の自然エネルギー」
同 日：茨城県、茨城中学校・高等学校 青山 潤特任准教授「うなぎの大回遊の謎」
11月 8日：青森県、県立青森高等学校 丹羽淑博特任准教授「津波の物理の基礎」
11月10日：東京都、大妻多摩中学高等学校 吉川貴志特任准教授「地球温暖化と海洋生
物」
11月19日：東京都、練馬区立谷原小学校 窪川かおる特任教授「海洋生物にみる進化」
11月21日：千葉県、県立東葛飾高等学校 丹羽淑博特任准教授「津波の物理の基礎」
11月26日：東京都、荒川区立第六日暮里小学校 佐藤慎司教授「海岸浸食と沿岸防災」

- 12月 5日：山口県、慶進中学校 福島朋彦特任准教授「沖ノ鳥島から学ぼう」
 12月11日：東京都、昭和女子大学附属昭和中学校 八木信行准教授「食卓に迫る危機」
 12月15日：神奈川県、横浜市立南高等学校附属中学校 巻 俊宏准教授「海中ロボット」
 12月19日：東京都、都立目黒高等学校 佐野光彦教授「サンゴ礁の海が今、危ない」

(2013)

- 2月18日：茨城県、日立第一高等学校附属中学校 吉川貴志特任准教授

「地球温暖化と海洋生

物」

- 2月21日：東京都、大田区立高畑小学校 福島朋彦特任准教授「アマモから学ぼう」

2月24日：長野県、長野市環境こどもサミット 窪川かおる特任教授「海洋生物にみる進化」

- 3月18日：東京都、都立隅田川高等学校 吉川貴志特任准教授「地球温暖化と海洋生物」

④ 知の羅針盤

(別紙8：知の羅針盤一覧)

一般を対象に海洋に関する時事や知識の普及・啓発を目的として、イニシャティブやシンポジウム等の海洋アライアンスの取り組みをウェブで紹介し、認知度を高めている本年度はサーバーおよびOSの更新に合わせて、これまでよりも全体のデザインをシンプルなものに変更すると共に、テーマが近い研究課題をカテゴリー分けする作業の検討にはいった。また、これまで、海洋アライアンスの公募研究であるイニシャティブの成果を中心に原稿を執筆頂いていたが、これからは、研究成果の解説と共にそこで収集されたデータを閲覧出来るようにする、あるいは担当者が直接原稿依頼するなど、新たな知見の増強を計画している。

- ・海洋生物の多様性保全と利用を考える

「大学院生による CBD-COP10 での発表」 農学生命科学研究科 佐野光彦

「里海を通じて視野を広げる」 農学生命科学研究科 橋本英奈

⑤ イブニングセミナー

(別紙9：イブニングセミナー一覧)

学内者を対象に海に関わる情報交換を目的としてイブニングセミナーを開催しているが、今年度は最新の研究内容と東アジア海域環境管理パートナーシップ (PEMSEA) に派遣した大学院生3名の発表を行った。

(2012年)

- 9月 6日：第15回：ウィンドチャレンジャー計画：特任研究員 大内一之

- 10月 3日：第16回：PEMSEA Youth Forum に参加して：

大学院学生 清水博紀、太田毅人、小川太

輝

(5) 研究支援活動

海洋に関する知識の普及啓発を目的としてワークショップ及び外国人講演会の開催支援、ならびに萌芽的研究支援のためのイニシャティブの募集を行っているが、ワークショップ及び外国人講演会は今年度の申請はなかった。

① イニシャティブ

(別紙11：特別審議委員会、別紙12：イニシャティブ一覧)

海洋に関わる様々な課題に対するシンクタンク機能の形成と実行を目的とする活動を支援し、教育関連分野について複数年の継続を認めるなど、学際的融合を促進している。今年度のトピックは、理学系研究科の茅根創教授の沖ノ鳥島勉強会のイニシャティブで、沖ノ鳥島におけるサンゴの種リストを完成させ、サンゴ標本の一部を本学総合博物館において展示・公開した沖

ノ鳥島におけるサンゴ調査は以前から行われていたが、総合的にまとめたリストがなく、世界のサンゴ分布の空白域になっていたため、リスト作成はサンゴの生物地理学的考察の進展に寄与し、同島の生態系と島の維持・保全を始める基本情報を提供することになったほかのイニシヤティブとしては、「ライブモニタリングによる里海里山環境プロファイリングと環境プラットホームの構築—大槌町東日本大震災津波復興計画赤濱地域—」（代表者：斎藤馨教授）や「漁業権の源流をさぐる」（代表者：八木信行准教授）等があり、学際的なテーマで研究が続けられている。

(2012年)

2月14日：特別審議委員会において、2012年度前期イニシヤティブの選考を審議

3月6日：2012年度第11回運営委員会において決定

(応募7件、採択7件、8,360,000円)

- a) ライブモニタリングによる里海里山環境プロファイリングと環境プラットホームの構築—大槌町東日本大震災津波復興計画赤濱地域— (斎藤 馨教授、領域)
- b) 船舶をめぐる経済安全保障の再定義～日本籍船に準ずると評価できる外国船舶に関する検討～ (上田大輔特任准教授、公共)
- c) サンゴ礁サマースクール (茅根 創教授、理)
- d) 沖ノ鳥島勉強会 (茅根 創教授、理)
- e) 貝類伝染病防疫のためのリスクコミュニケーションの場とモデルの構築
(良永知義教授、農)
- f) 地域社会の潜在能力活性化による離島振興策の提言 (継続) (早稲田卓爾准教授、領域)
- g) 島嶼周辺海域の保全と利用の望ましいバランス—沖縄県竹富町を事例として—
(福代康夫教授、アジア)

(2012年)

6月26日：特別審議委員会において、2012年度後期イニシヤティブの選考を審議

7月3日：2012年度第4回運営委員会において決定 (応募4件、採択2件、2,990,000円)

- a) 海洋安全保障の多面性とその調整 (松浦正浩特任准教授、公共)
- b) 漁業権の源流をさぐる (八木信行准教授、農)

③東北地方太平洋沖地震への取り組み (別紙12：調査支援一覧)

東北地方太平洋沖地震による震災は津波被害が特徴的である海洋における諸問題に分野横断的に対応する海洋アライアンスは震災から1週間後の2011年3月18日に緊急会議を招集し、以来、震災復興に向けた調査、社会への正確な科学情報の提供を実施し、今後も継続的に、その時々で必要な取り組みを実施していく。

【調査、プロジェクト】

- ・東北地方太平洋沖地震・津波災害からのレジリエンス向上についての提言に資する調査、ワークショップ等イベントに対する支援

2011年3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震および津波はその災害の死者の9割以上が津波による溺死とされ、海洋と共に生きる日本にとって宿命的課題を提示した災害でもあった。さらに福島第1原子力発電所の事故は世界中に波紋を呼んでおり、未解決の問題が数多く残されている。

本学においても、様々な分野が連携すると共に、個々人が濃淡はあっても何らかのかか

わりを持っていると考えられる。そうしてこれまで地震／津波の全体像や、地形変動、津波による施設の破壊、地域社会・産業への影響について調査が進んできたが、政治的判断の必要な、将来に向けた復興のあるべき姿や、将来の災害時への対策等については、総合的な将来像が示されていない。

災害当初においては本学においてさまざまな動きがあったが、今現在、こうすればよりよくなるという政策的な提言が、まとまった形で東京大学から社会に発信されてはいないのが現状である。個人個人で意見は異なるが、今回の『海の災害』に海洋アライアンスから、異なった分野からの視点で、それぞれの専門家の考えを取りまとめて発信し、レジリエンスの向上に貢献したいと考えた。そこで、海洋アライアンスは本機構メンバー及び本学教職員の調査研究を通して、あるいは、復興事業に携わる中でより良い復興行政の施策についての考えを発信し、社会に寄与すべく提言のとりまとめ作業に対し、資金的支援をする事業を企画した支援対象は全学問分野であり、調査、イベント等の実施期間は、2013年9月末までとした。

公募の結果、以下の4件が採択され、課題および主提案者を列挙する。

1) 岩手県沿岸部の集落・都市における土地利用と空間のあり方調査

～大槌町と陸前高田市を対象にして～

窪田亜矢 工学系研究科 准教授

2) 堤防の減災機能と限界の科学的理解に基づくレジリエントな沿岸域のデザイン

佐藤慎司 工学系研究科 教授

田島芳満 工学系研究科 准教授

3) 東北における水産業の復興に向けた釜石沿岸域の環境モニタリング調査

山本光夫 新領域創成科学研究科 特任准教授

4) 大学が社会と共に考えるレジリエンス

浦辺徹郎 理学系研究科 教授

・ 岩手県沿岸部における震災復興のための学生支援「おいしい三陸応援団」

東京大学大学院新領域創成科学研究科サステナビリティ学教育プログラムが岩手県沿岸広域振興局の依頼を受け、2011年7月から岩手県沿岸で被災した食品関連事業者の状況を記録／発信する活動を行っている（活動名称：おいしい三陸応援団）。三陸の豊かな水産資源を活用してきた食品関連事業者（水産加工業や地元飲食店など）の復興を目的とし、今後の復旧・復興に対する知見を残す一方、被災事業者の過去から未来への新たな歴史を作成するのを手伝えることでソフト面から復興を支援しようとするものである。2011年度は、同教育プログラムの学生が5回（7月、9月、12月、2月、3月）にわたり岩手県沿岸部を訪問し、岩手県沿岸広域振興局から紹介された7事業者に対してインタビューを実施して、各事業者の状況を時系列にまとめた復興ストーリーをウェブサイト「おいしい三陸応援団」に掲載する一方、継続したアップデートを重ねてきた。

海洋アライアンスでは、本活動の拡大を岩手県沿岸広域振興局から打診され、海洋学際教育プログラム、とくに海洋問題演習の主旨にも合致することから、2012年度からは海洋学際教育プログラムの履修学生（公共政策6名、農学1名）も参加することになり、同年8月から活動を開始、教育面だけでなく学生の旅費等に関する支援を行っている。

【情報発信】

海洋アライアンスはシンポジウムや専門のホームページによって、その時々で最新の情報を一般向けに提供している。また、メーリングリストを用い、震災および復興に関連する情報を海洋アライアンスメンバー間で共有する取り組みを続けている。

震災専用サイト「東北地方太平洋沖地震への海洋アライアンスの取り組み」

<http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/shinsai2011/index.html>

④書籍の出版

総合海洋基盤（日本財団）プログラム第1期に出版した、窪川かおる編／女性海洋研究者チーム著『海のプロフェッショナル—海洋学への招待状—』について、評判がよかったので、第1版2刷を東海大学出版会から2,000部増版し、販売している。

以 上

東京大学海洋アライアンス・2012年度助成事業進行報告書
添付書類一覧

- A 海洋アライアンス概要パンフレット
- B 東京大学横断型教育プログラム（2012年版）
- C 「海洋学際教育プログラム」開講科目講義シラバス（平成24（2012）年度）
- D 東大とロードアイランド大学による共同サマーセミナー
- E・F 東京大学海洋アライアンスシンポジウム第7回「東京大学の海研究」
【人と海のかかわりの将来像】チラシおよび概要集

- 別紙1 構成員名簿（教員・支援部局職員・機構職員）
- 別紙2 評議会委員名簿
- 別紙3 推進委員会委員名簿
- 別紙4 運営委員会委員名簿
- 別紙5 教育プログラム作業委員会委員名簿
- 別紙6 全学体験ゼミナール
- 別紙7 出前授業実施一覧
- 別紙8 知の羅針盤一覧
- 別紙9 イブニングセミナー実施一覧
- 別紙10 特別審議委員会委員名簿
- 別紙11 イニシアティブ採択一覧
- 別紙12 調査支援一覧

平成24年度 海洋アライアンス 構成員名簿(教員)

機 構 内 の 職 名	氏 名	所 属	備 考
機構長	浦 環	生産技術研究所	教授
副機構長	浦辺 徹郎	理学系研究科	教授
副機構長	木暮 一啓	海洋研究所	教授
副機構長	木村 伸吾	新領域創成科学研究科(大気海洋研兼務)	教授
海洋政策学ユニット長	城山 英明	公共政策大学院	教授
学際海洋学 ユニット長	黒倉 壽	農学生命科学研究科	教授
平塚沖総合実験タワーオフィサー	林 昌奎	生産技術研究所	教授
海洋教育促進研究センター長	田中 智志	教育学研究科	教授
機構本部特任准教授	福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授
海洋政策学ユニット特任准教授	上田 大輔	公共政策大学院	特任准教授
海洋政策学ユニット特任准教授	松浦 正浩	公共政策大学院	特任准教授(～6.30)
海洋政策学ユニット特任講師	村上 裕一	公共政策大学院	特任講師(10.1～)
海洋政策学ユニット特任助教	菅野 直之	公共政策大学院	特任助教
学際海洋学ユニット特任准教授	山本 光夫	新領域創成科学研究科	特任准教授
学際海洋学ユニット特任講師	西田 周平	生産技術研究所	特任講師(8.16～)
学際海洋学ユニット特任准教授	吉川 貴志	農学生命科学研究科	特任准教授
学際海洋学ユニット特任准教授	青山 潤	大気海洋研究所	特任准教授
海洋教育促進研究センター特任教授	窪川かおる	理学系研究科	特任教授
海洋教育促進研究センター特任准教授	丹羽 淑博	理学系研究科	特任准教授
海洋教育促進研究センター特任講師	河野麻沙美	海洋アライアンス	特任講師
海洋教育促進研究センター特任研究員	大森 紹仁	理学系研究科	特任研究員
機構本部特任研究員	野村 英明	大気海洋研究所	特任研究員
海洋アライアンス上席主幹研究員	野村 一郎	農学生命科学研究科	特任研究員(～11.30)
海洋アライアンス上席主幹研究員	宮崎 活志	理学系研究科	特任研究員(～10.30)

平成24年度 海洋アライアンス 構成員名簿(支援部局職員・機構職員)

機構内の職名・職種等	氏名	所属	備考
支援部局長	新野 宏	大気海洋研究所	所長
事務支援(統括)	瀧田 忠彦	大気海洋研究所	事務長
事務支援(総務)	平澤 敏之	大気海洋研究所	副事務長(総務担当)
事務支援(会計)	塩田 俊仁	大気海洋研究所	副事務長(会計担当)
事務支援(会計)	桶谷 文紀	大気海洋研究所	主査
事務支援(会計)	大浦 輝一	大気海洋研究所	財務チーム係長(～6.30)
事務支援(会計)	米村裕次郎	大気海洋研究所	財務チーム係長(7.1～)
事務支援(会計)	荻野 久憲	大気海洋研究所	経理・調達チーム係長
事務支援(教育)	武井 和夫	新領域創成科学研究科	事務長
事務支援(教育)	米山 永子	新領域創成科学研究科	専門職員
事務支援(教育)	小杉 真人	新領域創成科学研究科	教務係長
事務支援(タワー)	齋藤 博和	生産技術研究所	財務・監査チーム係長
事務支援(海洋リテラシー)	生田目金雄	理学系研究科等	経理課長
事務支援(海洋リテラシー)	菊地 眞悟	理学系研究科等	経理課研究支援・外部資金チーム係長
特任専門員	大澤 悦子	海洋アライアンス	機構本部事務
特任専門職員	齋藤 優	新領域創成科学研究科	教育事務
学術支援専門職員	小山久美子	理学系研究科等	海洋教育促進研究センター事務
事務補佐員	野本 直子	海洋アライアンス	機構本部本郷事務(5.28～)
事務補佐員	北島 靖子	海洋アライアンス	機構本部事務(9.12～産休、育休)
事務補佐員	山口 育代	海洋アライアンス	機構本部事務(9.18～北島代員)
事務補佐員	三上 寛子	新領域創成科学研究科	教育事務(5.1～)
事務補佐員	太田あゆみ	理学系研究科等	海洋教育促進研究センター事務(～3.15)

平成24年度 海洋アライアンス 評議会委員名簿

	氏名	所属	職名
委員長	浦 環	生産技術研究所	機構長
委員	浦辺 徹郎	大学院理学系研究科	副機構長
委員	木暮 一啓	大気海洋研究所	副機構長
委員	木村 伸吾	大学院新領域創成科学研究科	副機構長
委員	市川 伸一	大学院教育学研究科長	研究科長
委員	相原 博昭	大学院理学系研究科	研究科長
委員	原田 昇	大学院工学系研究科	研究科長
委員	長澤 寛道	大学院農学生命科学研究科	研究科長
委員	上田 卓也	大学院新領域創成科学研究科	研究科長
委員	伊藤 隆俊	大学院公共政策学連携研究部長 大学院) (公共政策	研究部長(院長)
委員	小屋口剛博	地震研究所	所長
委員	中埜 良昭	生産技術研究所	所長
委員	新野 宏	大気海洋研究所	所長

13名

平成24年度 海洋アライアンス 推進委員会委員名簿

	氏名	所属	専攻等	職名	
委員長	浦 環	生産技術研究所	海中工学国際研究センター	教授	
委員	田中 智志	教育学研究科	学校教育高度化専攻	教授	
委員	松尾 基之	総合文化研究科	広域科学専攻	教授	
委員	小宮 剛			准教授	
委員	西村 弓		国際社会科学専攻	准教授	
委員	赤坂 甲治	理学系研究科	生物科学専攻(臨海実験所)	教授	
委員	岡 良隆		生物科学専攻	教授	
委員	浦辺 徹郎		地球惑星科学専攻		教授
委員	茅根 創				教授
委員	日比谷 紀之				教授
委員	佐藤 慎司	工学系研究科	社会基盤学専攻	教授	
委員	加藤 泰浩			教授	
委員	村山 英晶		システム創成学専攻	准教授	
委員	登坂 博行			教授	
委員	良永 知義	農学生命科学研究科	水圏生物科学専攻	准教授	
委員	黒倉 壽		農学国際専攻	教授	
委員	佐野 光彦		生圏システム学専攻	教授	
委員	木村 伸吾	新領域創成科学研究科 環境学研究系	自然環境学専攻	教授	
委員	斎藤 馨			教授	
委員	高木 健		海洋技術環境学専攻	教授	
委員	佐藤 徹			教授	
委員	早稲田 卓爾			准教授	
委員	多部田 茂		環境システム学専攻	准教授	
委員	稗方 和夫		人間環境学専攻	准教授	
委員	磯部 雅彦		社会文化環境学専攻	教授	
委員	城山 英明	公共政策大学院		教授	
委員	中谷 和弘			教授	
委員	歌田 久司	地震研究所	海半球観測研究センター	教授	
委員	篠原 雅尚		観測開発基盤センター	教授	
委員	林 昌奎	生産技術研究所	海中工学国際研究センター	教授	
委員	藤井 輝夫		マイクロナノメカトロニクス 国際研究センター	教授	
委員	榎原 雅治	史料編纂所		教授	
委員	木暮 一啓	大気海洋研究所	地球表層圏変動研究センター	教授	
委員	蒲生 俊敬		海洋地球システム研究系	教授	
委員	狩野 泰則			准教授	
委員	羽角 博康		気候システム研究系	准教授	
委員	福代 康夫	アジア生物資源 環境研究センター		教授	
委員	福島 朋彦	海洋アライアンス	機構本部	特任准教授	
委員	上田 大輔		海洋政策学ユニット	特任准教授	
委員	青山 潤		学際海洋学ユニット	特任准教授	

平成24年度 海洋アライアンス 運営委員会委員名簿

	氏 名	所 属	職 名
委員長	浦 環	生産技術研究所	教授
委員	浦 辺 徹 郎	大学院理学系研究科	教授
委員	木 暮 一 啓	大気海洋研究所	教授
委員	木 村 伸 吾	大学院新領域創成科学研究科・ 大気海洋研究所兼務	教授
委員	城 山 英 明	公共政策連携研究部・海洋政策学ユニット兼務	教授
委員	村 山 英 晶	大学院工学系研究科	准教授
委員	藤 井 輝 夫	生産技術研究所	教授
委員	黒 倉 壽	大学院農学生命科学研究科	教授
委員	古 谷 研	大学院農学生命科学研究科	教授
委員	林 昌 奎	生産技術研究所・タワーオフィサー兼務	教授
委員	日比谷 紀 之	大学院理学系研究科	教授
委員	福 島 朋 彦	海洋アライアンス	特任准教授
委員	蒲 生 俊 敬	大気海洋研究所	教授
委員	田 島 芳 満	工学系研究科	准教授

14名

平成24年度 海洋アライアンス 教育プログラム作業委員会委員名簿

	氏名	所属	専攻等	職名
主査	浦 環	生産技術研究所	海中工学国際研究センター	教授
副査	浦 辺 徹 郎	大学院理学系研究科	地球惑星科学専攻	教授
副査	木 村 伸 吾	大学院新領域創成科学研究科	環境学研究系 自然環境学専攻	教授
委員	城 山 英 明	公共政策大学院	政策政治学講座	教授
委員	赤 坂 甲 治	大学院理学系研究科	生物科学専攻 (臨海実験所)	教授
委員	佐 藤 慎 司	大学院工学系研究科	社会基盤学専攻	教授
委員	村 山 英 晶		システム創成学専攻	准教授
委員	古 谷 研	大学院農学生命科学研究科	水圏生物科学専攻	教授
委員	八 木 信 行		農学国際専攻	准教授
委員	高 木 健	大学院新領域創成科学研究科	環境学研究系 海洋技術環境学専攻	教授
委員	交 告 尚 史	大学院法学政治学研究科(公共政策大学院兼務)		教授

11名

平成24年度 全学体験ゼミナール:海で学ぶ—臨海実験所における海洋体験実習—

日 程	ゼミ実施期間: 9月24日(月)~9月26日(水)(2泊3日)
実施場所	神奈川県三崎市 東京大学大学院理学系研究科・理学部附属臨海実験所
担当教員	早稲田卓爾、山本光夫、吉田学、巻俊宏、福島朋彦、山口 一、伊勢優史
参加学生数	18名
実習概要	第一日目 午後:ガイダンス、海岸の地質見学、セミナーシリーズ 夜 : 棧橋における観察(灯火採集) 第二日目 午前:臨海丸乗船実習(台風のため中止) 午後:セミナーシリーズ 実習(ROV、和船操船、海水分析、顕微鏡観察) 第三日目 午前:実習(ROV、和船操船、海水分析、顕微鏡観察) 午後:セミナーシリーズ、油壺マリンパーク水族館

平成24年度海洋アライアンス 出前授業実施一覧

番号	教員	所属	職名	タイトル	実施日	都道府県名	学校名	対象区分
1	山谷 研	農学生命科学研究科	教授	海の砂漠	6月9日	山梨県	山梨県甲斐市立双葉中学校	中学生
2	佐藤 慎司	工学系研究科	教授	津波と沿岸防災	6月9日	栃木県	國學院大栃木高等学校	高校生
3	木村 伸吾	新領域創成科学研究科	教授	食べて美味しい魚の話ーウナギとマグロの大回遊ー	6月9日	東京都	桜美林高校	高校生
4	福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	沖ノ鳥島から学ぼう	6月26日	東京都	桜美林高校	高校生
5	巻 俊宏	生産技術研究所	准教授	海中ロボット	6月26日	東京都	世田谷区立八幡山小学校	小学生高学年
6	山本 光夫	新領域創成科学研究科	特任准教授	鉄による海の緑化と沿岸域の環境保全	6月27日	宮城県	宮城県泉高等学校	高校生
7	八木 信行	農学生命科学研究科	准教授	食卓に迫る危機	6月29日	茨城県	古河市立古河第一小学校	小学生高学年
8	鈴木 英之	新領域創成科学研究科	教授	海の自然エネルギー	7月2日	茨城県	水戸啓明高等学校	高校生
9	北川 貴士	大気海洋研究所	准教授	熱い血潮のマグロたち	7月13日	東京都	東京都市大学付属高等学校	高校生
10	鈴木 英之	新領域創成科学研究科	教授	海の自然エネルギー	7月17日	千葉県	八千代松陰高校	高校生
11	福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	海の生き物あれこれ	7月26日	東京都	大田区立多摩川小学校	小学生
12	巻 俊宏	生産技術研究所	准教授	海中ロボット	8月7日	千葉県	千葉県鎌ヶ谷市立西部小学校支援	小学生高学年
13	青山 潤	大気海洋研究所	特任准教授	うなぎの大回遊の謎	9月1日	東京都	科学技術館での科学ライブショー「ユニバース」	一般
14	窪川 かおる	理学系研究科	特任教授	海洋生物にみる進化	9月8日	東京都	葛飾区立綾南小学校	小学生高学年
15	丹羽 淑博	理学系研究科	特任准教授	津波の物理の基礎	9月10日	埼玉県	花咲徳栄高等学校	高校生
16	浦辺 徹郎	理学系研究科	教授	深海底に生物の起源を探す	9月29日	東京都	大泉高等学校附属中学校	中学生
17	八木 信行	農学生命科学研究科	准教授	食卓に迫る危機	10月9日	茨城県	茨城県立江戸崎総合高等学校	高校生
18	丹羽 淑博	理学系研究科	特任准教授	津波の物理の基礎	10月15日	千葉県	千葉市立千葉高等学校	高校生
19	福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	沖ノ鳥島から学ぼう	10月17日	神奈川県	神奈川県立海洋科学高等学校	高校生
20	佐藤 慎司	工学系研究科	教授	海岸侵食と沿岸防災	10月19日	広島県	広島県立賀茂高等学校	高校生
21	福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	海の生き物あれこれ	10月26日	東京都	清瀬市立清瀬第三小学校	小学生
22	山本 光夫	新領域創成科学研究科	特任准教授	鉄による海の緑化と沿岸域の環境保全	10月26日	鹿児島県	鹿児島県立鶴丸高等学校	高校生
23	青山 潤	大気海洋研究所	特任准教授	うなぎの大回遊の謎	10月29日	東京都	東京都立両国高等学校	高校生
24	青山 潤	大気海洋研究所	特任准教授	うなぎの大回遊の謎	10月31日	岐阜県	岐阜県立大垣東高等学校	高校生
25	吉川 貴志	農学生命科学研究科	特任准教授	地球温暖化と海洋生物	10月31日	宮城県	宮城県立延岡高校	高校生
26	鈴木 英之	新領域創成科学研究科	教授	海の自然エネルギー	11月7日	熊本県	熊本県立沓ヶ賀高等学校	高校生
27	青山 潤	大気海洋研究所	特任准教授	うなぎの大回遊の謎	11月7日	茨城県	茨城中学校・高等学校	中学生
28	丹羽 淑博	理学系研究科	特任准教授	津波の物理の基礎	11月8日	青森県	青森県立青森高等学校	高校生
29	吉川 貴志	農学生命科学研究科	特任准教授	地球温暖化と海洋生物	11月10日	東京都	大妻多摩中学高等学校	中学生
30	窪川 かおる	理学系研究科	特任教授	海洋生物にみる進化	11月16日	鳥取県	鳥取県立米子東高等学校	高校生
31	窪川 かおる	理学系研究科	特任教授	海洋生物にみる進化	11月19日	東京都	東京都練馬区立谷原小学校	小学生高学年
32	丹羽 淑博	理学系研究科	特任准教授	津波の物理の基礎	11月21日	千葉県	千葉県立東葛飾高等学校	高校生
33	佐藤 慎司	工学系研究科	教授	海岸侵食と沿岸防災	11月26日	東京都	荒川区立第六日暮里小学校	小学生高学年
34	福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	沖ノ鳥島から学ぼう	12月5日	山口県	慶進中学校	中学生
35	八木 信行	農学生命科学研究科	准教授	食卓に迫る危機	12月11日	東京都	昭和女子大学附属昭和中学校	中学生
36	巻 俊宏	生産技術研究所	准教授	海中ロボット	12月15日	神奈川県	横浜市立南高等学校附属中学校	中学生
37	佐野 光彦	農学生命科学研究科	教授	サンゴ礁の海が今、危ない	12月19日	東京都	東京都立目黒高等学校	高校生
38	吉川 貴志	農学生命科学研究科	特任准教授	地球温暖化と海洋生物	2月18日	茨城県	日立第一高等学校附属中学校	中学生
39	福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	アマモから学ぼう	2月21日	東京都	大田区立高畑小学校	小学生高学年
40	窪川 かおる	理学系研究科	特任教授	海洋生物にみる進化	2月24日	長野県	長野市環境こどもサミット	小学生高学年
41	吉川 貴志	農学生命科学研究科	特任准教授	地球温暖化と海洋生物	3月18日	東京都	東京都立隅田川高等学校	高校生

平成24年度 海洋アライアンス 知の羅針盤一覧

カテゴリ	タイトル	研究者	所属	職名
海洋生物の多様性保全と利用を考える	大学院学生によるCBD-COP10での発表	佐野光彦	農学生命科学研究科	教授
	里海を通じて視野を広げる	橋本英奈	農学生命科学研究科	大学院学生

平成24年度 海洋アライアンス イブニングセミナー開催一覧

回数	開催日	開催場所	演 題	講 演 者	参加人数
第15回	2012年9月6日	理学部1号館 7階710室	ウインドチャレンジャー計画	新領域創成科学研究科 特任研究員 大内一之	8人
第16回	2012年10月3日	旧理学部1号館1階150室	PEMSEA Youth Forum に参加して	工学系研究科 修士2年 清水博紀 農学生命科学研究科 修士1年 太田毅人 新領域創成科学研究科 修士1年 小川太輝	19人

平成24年度 海洋アライアンス 特別審議委員会委員名簿

	氏名	所属	専攻等	職名
委員長	浦辺徹郎	理学系研究科	地球惑星科学専攻	教授
委員	浦環	生産技術研究所	海中工学国際研究センター	教授
委員	木暮一啓	大気海洋研究所	地球表層圏変動研究センター	教授
委員	木村伸吾	新領域創成科学研究科	環境学研究系 自然環境学専攻	教授
委員	中谷和弘	法学政治学研究科（公共政策大学院兼務）		教授
委員	城山英明	公共政策大学院		教授
委員	田中智志	教育学研究科		教授
委員	松尾基之	総合文化研究科	広域科学専攻	教授
委員	赤坂甲治	理学系研究科	生物科学専攻 (臨海実験所)	教授
委員	日比谷紀之	理学系研究科	地球惑星科学専攻	教授
委員	佐藤慎司	工学系研究科	社会基盤学専攻	教授
委員	村山英晶		システム創成学専攻	准教授
委員	古谷研	農学生命科学研究科	水圏生物科学専攻	教授
委員	黒倉寿	農学生命科学研究科	農学国際専攻	教授
委員	磯部雅彦	新領域創成科学研究科	環境学研究系 社会文化環境学専攻	教授
委員	高木健		環境学研究系 海洋技術環境学専攻	教授
委員	歌田久司	地震研究所	海半球観測研究センター	教授
委員	藤井輝夫	生産技術研究所	マイクロナノメカトロニクス 国際研究センター	教授
委員	林昌奎	生産技術研究所	機械・生体系部門	教授
委員	榎原雅治	史料編纂所		教授
委員	福代康夫	アジア生物資源 環境研究センター		教授
委員	羽角博康	大気海洋研究所	気候システム研究系	准教授
委員	福島朋彦	海洋アライアンス		特任准教授

平成24年度 海洋アライアンス イニシアティブ採択一覧

	番号	イニシアティブ計画名	代表者名	代表者所属	職名	予算配分 (円)
前 期	1	ライブモニタリングによる里海里山環境プロファイリングと環境教育プラットフォームの構築－大槌町東日本大震災津波復興計画赤濱地域－	斎藤 馨	新領域創成科学研究科	教授	1,460,000
	2	船舶をめぐる経済安全保障の再定義 ～日本籍船に準ずると評価できる外国船舶に関する検討～	上田 大輔	公共政策大学院	特任准教授	1,500,000
	3	サンゴ礁サマースクール	茅根 創	理学系研究科	教授	600,000
	4	沖ノ鳥島勉強会	茅根 創	理学系研究科	教授	300,000
	5	貝類伝染病防疫のためのリスクコミュニケーションの場とモデルの構築	良永 知義	農学生命科学研究科	教授	1,500,000
	6	地域社会の潜在能力活性化による離島振興策の提言(継続)	早稲田卓爾	新領域創成科学研究科	准教授	1,500,000
	7	島嶼周辺海域の保全と利用の望ましいバランス －沖縄県竹富町を事例として－	福代康夫	アジア生物資源環境研究センター	教授	1,500,000
後 期	8	海洋安全保障の多面性とその調整	松浦正浩	公共政策大学院	特任准教授	1,490,000
	9	漁業権の源流をさぐる	八木 信行	農学生命科学研究科	准教授	1,500,000

11,350,000

平成24年度 東北地方太平洋沖地震・津波災害からのレジリアンス向上についての提言に資する調査支援一覧

番号	1)計画名	2)主提案者名・所属・身分・	3)共同提案者名・所属・身分	予算額 (円)
1	岩手県沿岸部の集落・都市における土地利用と空間のあり方調査～大槌町と陸前高田市を対象にして～	窪田 亜矢 工学系研究科都市工学専攻 准教授	羽藤英二・工学系研究科社会基盤学専攻	1,000,000
2	堤防の減災機能と限界の科学的理解に基づくレジリエントな沿岸域のデザイン	佐藤慎司 工学系研究科社会基盤学専攻 教授 田島芳満 工学系研究科社会基盤学専攻 准教授	清野聡子・九州大学 岸田弘之・鳥居謙一・国土交通省国土技術政策総合研究所	1,000,000
3	東北における水産業の復興に向けた釜石沿岸域の環境モニタリング調査	山本光夫 新領域創成科学研究科 特任准教授	松尾基之・総合文化研究科・副研究科長・教授 多部田茂 新領域創成科学研究科・准教授 北澤大輔・生産技術研究所・准教授 小豆川勝見 総合文化研究科・助教 加藤孝義・工学系研究科・技術専門職員 藤野正俊・生産技術研究所・助手	1,000,000
4	大学が社会と共に考えるレジリアンス	浦辺徹郎 理学系研究科地球惑星科学専攻 教授	相原博昭・理学系研究科物理学専攻・教授 大塚孝治・理学系研究科物理学専攻・教授 横山広美・理学系研究科理学系化学コミュニケーション分野・准教授	1,000,000
				4,000,000

東大とロードアイランド大学による共同サマーセミナー

～ 津波大惨事からの復興 ～

東京大学 海洋アライアンス

東日本大震災の発生以降、海洋アライアンスは海をキーワードにした総合的支援に取り組んできた。具体的には調査隊の派遣、津波シンポジウムの開催、漁業関係者との協働による海底観察および説明集会などが相当する。今回紹介するのは、こうした活動の一環として行われた日米大学院生を対象としたサマーセミナーである。



吉浜湾をバックに記念撮影

東京大学 海洋アライアンスとロードアイランド大学は、海に関する共同セミナーを継続的に実施することに合意し、去る5月には MOU を締結した。第1回目のホストとなった東京大学は「沿岸集落が津波大惨事から復興するための計画」をテーマに掲げ、三陸町でのセミナーを計画した。

 <p>THE UNIVERSITY OF RHODE ISLAND</p> <p>東大 - URI</p> <p>Joint Summer Seminar</p> <p>-Recovering from the Catastrophic Tsunami-</p>	<p>テーマ： Recovering from the Catastrophic Tsunami</p> <p>月 日： 2012年8月7日～15日</p> <p>場 所： 北里大学三陸キャンパス (岩手県大船渡市三陸町越喜来字鳥頭)</p> <p>受講者： 東京大学およびロードアイランド大学の大学院生それぞれ7名</p>
---	--

セミナーの内容は大きく分けて、講義、現地踏査、グループワークおよび発表からなる。特に現地踏査では、三陸町周辺の綾里、吉浜、崎浜、陸前高田、越喜来湾、唐丹などの惨状を目に焼き付けることに加え、大槌の仮役所や大気

海洋研究所の関係者から説明を受け、より正確に実態を把握することができた。これらの他にも、赤浜地区の仮設住宅では被災した方々と復興に向けての意見交換会を行ったり、大船渡の屋台村では地元の人々と胸襟を開いて語り合ったりと、多様な形態の情報収集に努めた。



被災した方々に花を手向ける



海から被災状況を確認する



赤浜の仮設住宅で被災した方に話を伺う



屋台村で地元の人たちと交流する



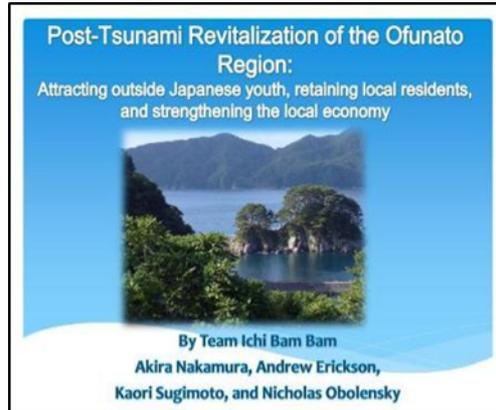
唐丹の惨状を目の当たりにする



大槌の役場跡で手を合わせる

日米学生の混成チームによるグループワークでは、多角的視点から沿岸集落の復興計画が検討され、最終日にはその結果発表が行われた。以下は、それぞれのグループが提案した内容である。

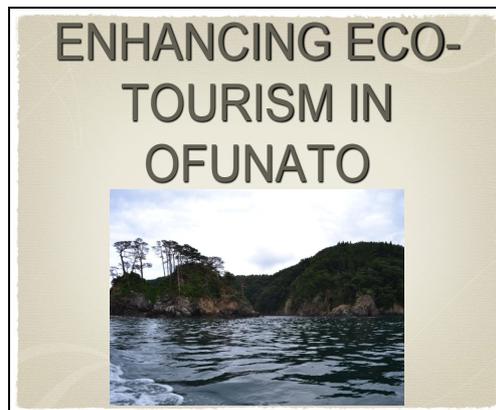
大船渡の活性のために若者たちを取り戻す策



中村彬良, Andrew Erickson, 杉本華織, Nicholas Obolensky

北里大学は、震災により三陸からの撤退を余儀なくされた。地元は同学が再びこの地に戻り、経済のみならず様々な形の地域活性に取り組むことを期待している。しかしどのような形で戻ることが、大学と町の双方にとって望ましいのであろうか？地域における若者の存在意義を問いつつ考察した。

エコツーリズムを取り入れた復興策を



玉井友里, 太田毅人, Sabrina Brotons

震災で傷ついたこの地であるが、幸いにも、美しい自然が残されている。また自然との共存のなかで育まれた独特な伝統もある。こうした環境を活かし、突棒体験など、新しいエコツーリズムを復興の梃子にすべきであると考え、経済性をはじめとしたフィージビリティの条件を検討した。

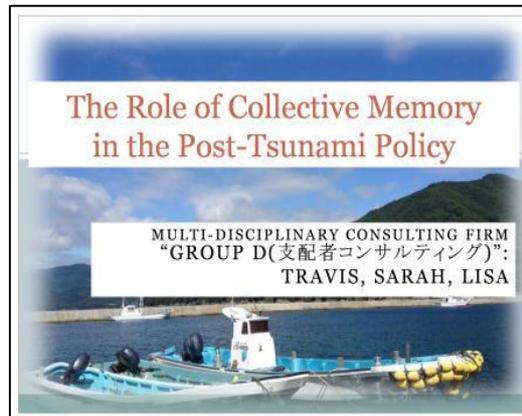
原発事故で疲弊した大槌の魚市場の復活策



Yi Zhang, Justin Willig, 桑田恭光, 齊藤純一

放射能に汚染された魚介類が様々な健康被害をもたらすのは論を俟たない。しかし今回は、安全基準の周知が不十分であるばかりに、実態とはかけ離れた不安が駆け巡ったことも事実である。そこで、ラベルの有効性を中心に、如何にして正しい情報が伝えられるべきかを検討した。

歴史が残した教訓を如何に活用するか



Travis Robert, Sarah Parker, 菊池里紗

三陸沿岸は繰り返し津波に襲われてきたため、津波から身を守るための碑が残されている。そこには津波と対峙してきた経験と知恵が凝縮されている。これから歴史の残した教訓を今後の政策に如何に活用すべきだろうか。効果と限界を見極めつつ多角的に検討した。

本ネットワークで紹介される支援活動は、被災者の心のケアから、住民のコミュニケーションを重視した仮設住宅の設計まで、実に多種多様である。多くの場合は直接的かつ即効性のある支援であるため、酷暑のなかで、身を削りながら活動していたことと思う。活動に関わっている方々には心より敬意を表したい。

他方で海洋アライアンスの支援は、それらの活動とはやや方向性を異にする。すなわち長期的ビジョンのなかで間接的な効果を期待するものが中心である。今回のセミナーも、教育というフィルターをとおしての支援であり、効果が出てくるのは先のことである。しかし確かな復興を成し遂げるには、直接と間接、長期と短期の活動が絶妙なバランスで織り成されなければならない。その意味で今回のセミナーも支援という大きな枠組みの中の一翼を担ったと考えたい。

滞在期間が8泊9日という時間的制約もあり、学生たちの提案内容には荒削りな部分のあることは否めない。しかし日米の学生たちが、教員や地元の人々の力を借りながらも懸命にアイデアをひねり出そうとしたことを温かく評価したい。特に公用語が英語であったため、東京大学の学生たちには少なからず負担があったことと思う。しかし異なる文化をもつ学生たちが言葉の壁を乗り越えながら被災地の問題に向き合ったことは、教育の企画として意義深かっただけでなく、個々の学生たちにとっても貴重な経験になったと思う。

ロードアイランド大学の学生たちは、8月16日に日本を後にし、それぞれのコミュニティに戻っていった。彼らはきっと、東日本大震災の惨状とともに、そこから再び立ち上がろうとする東北の人々の心意気を語り伝えてくれることだろう。

謝辞

今回のセミナーは海洋アライアンスとロードアイランド大学の共同企画で行われたものであるが、宿舎、キャンパスおよび現地ガイドを提供して下さった北里大学の協力は不可欠だった。また多忙のなか、赤浜地区、屋台村および魚市場の方々が快くインタビューに応じて下さったことも印象的である。これらの方々すべてにこの場を借りて御礼申し上げたい。最後になったが、海洋アライアンスの活動は日本財団の支援を受けて実施されている。

【 参 考 】

(参加学生)

Sarah Parker, Yi Zhang, Travis Roberts, Justin Willig, Nicholas Obolensky, Sabrina Brotons, Andrew Erickson (URI), 杉本華織、菊池里紗、玉井友里、齊藤純一、太田毅人、中村彬良、桑田恭光 (東京大学)

(参加教員； ロードアイランド大学)

Robert Thompson (海洋政策学部教授)、Timothy George (人文科学部教授)、Hirotsugu Uchida (環境資源経済学部准教授)

(参加教員およびスタッフ： 東京大学および北里大学)

黒倉寿 (農学生命科学研究科教授)、野村一郎 (海洋アライアンス上席主幹研究員)、八木信行 (農学生命科学研究科准教授)、福島朋彦 (海洋アライアンス特任准教授)、大石太郎 (農学生命科学研究科研究員)、緒方悠香 (新領域創成科学研究科研究員)、林崎健一 (北里大学海洋生命科学研究科准教授)、鈴木崇史・富澤宏介 (北里大学海洋生命科学部)

海洋アライアンス シンポジウム

第7回 東京大学の海研究

【人と海のかかわりの将来像】

2012年7月24日(火)

東京大学 農学部【弥生講堂・一条ホール】

10:30 ~ 17:30

主催： 東京大学 海洋アライアンス
参加費：無料

~~~~ プログラム ~~~~

|                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 次期海洋基本計画の課題について        | 城山英明 (公共政策大学院)             |
| 海洋リテラシーが育む女性進出への期待     | 窪川かおる (理学系研究科)             |
| 洋上風力発電と地域・漁業の共生        | 松浦正浩 (公共政策大学院)             |
| ライブモニタリングによる環境プロファイリング | 齋藤 馨 (新領域創成科学研究科)          |
| バイオロギングがもたらす新しい海洋情報    | 佐藤克文 (大気海洋研究所)             |
| 藻場再生と沿岸環境              | 山本光夫 (新領域創成科学研究科)          |
| 東北沿岸域の生態系の変遷           | 河村知彦 (大気海洋研究所)             |
| 東北地域の新たな漁業への道筋         | 黒倉 壽 (農学生命科学研究科)           |
| 地球システムの変遷からみた将来予測      | 住 明正 (サステナビリティ学<br>連携研究機構) |

■ 参加申し込み：下記ホームページよりお願いします。 ■

URL: <http://www.oa.u-tokyo.ac.jp>

問い合わせ先(大気海洋研究所 野村英明)

E-mail: nmr@aori.u-tokyo.ac.jp

TEL : 04-7136-6417